

(別紙様式 = 小学校用)

都道府県番号	47
都道府県名	沖縄県

【  \*重点をおいた観点到にチェックすること

学校名及び規模

学校名	知念村立知念小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	3	1	14	21
児童数	58	49	57	61	50	82	2	359	

研究の概要

(1) 研究主題

「自ら考え、学ぶ子の育成」 - 基礎学力の定着を図る指導を通して -
---------------------------------------

(2) 研究主題設定の趣旨

諸検査結果は全国に比べ、やや低く、基礎学力の定着を図る取組が肝要である。又、本校教育重点目標「自ら学ぶ、心豊かな子」の育成を目指して、「基礎学力の定着」「自ら考え、学び、進んで実践する態度の育成」を図る。 確かな学力を身につけるため、きめ細かな指導を充実させ、基礎学力を定着させる。
--

研究の概要(選択した観点到を中心に記述すること)

(1) 研究推進体制の工夫

『個を生かす指導法・指導体制の工夫改善』に力点を置いて次の5つの視点で研究に取り組んだ。

1 習熟度別少人数編成による指導の工夫改善

方法

2年以上で実施し、指導方法工夫改善加配教諭が入る。また、重要単元では地域の方や保護者に協力を仰ぎながら実施している。

少人数指導のスタイル

習熟度別学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>進度や習熟の程度に応じてグループや少人数の形態で学習する</li> <li>発展的な指導では自分で選ぶ自由課題にチャレンジさせたり、基礎的な指導は繰り返し学習をさせるなどの工夫をする。</li> </ul>	主に算数、国語
等質別学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級を2つに、無作為に編成する。少ない人数で個に対応できるし、多様な考えを出し合い、問題解決学習を行う。</li> </ul>	主に算数、国語
課題選択学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ課題を選んだ仲間とグループを作って学習する。</li> <li>1つの共通課題で少人数授業を展開する</li> </ul>	総合、社会、理科、生活科等
学習方法選択学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題が同じで、様々な方法や学習場面を選択して学習する</li> <li>コンピュータ、図書室、地域学習</li> </ul>	総合、社会、生活科等、
T.T(ティーム・ティーチング)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年または学級内で個に応じた多様な考えを出し合うが、習熟度または技能の違いに対応するため、複数の教師で指導する。</li> </ul>	算数、国語、総合、社会、生活科等
45分の学年内 同一教科の授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年T.T</li> <li>学年プールにした合同学習</li> <li>学級間を越えた習熟度別学習や等質編成学習</li> </ul>	国語、算数、総合、社会、生活科等

2 学校外の専門家等、地域の人材を活用した指導体制の推進

方法

- ・年度当初による学習支援ボランティアの年間計画を作成し、活用する。
- ・「水明会」については、村教育委員会に事務局をおき、学校側からの要請により村出身の教員及び退職教員を派遣していただく。
- ・事前の打合わせは、学級担任を通して行い、指導の効果が上がるように実施する。
- ・教科、クラブ活動・補習等に外部のボランティアを積極的に活用し、指導の充実を図っている。

3 一部教科担任制の実施

方法

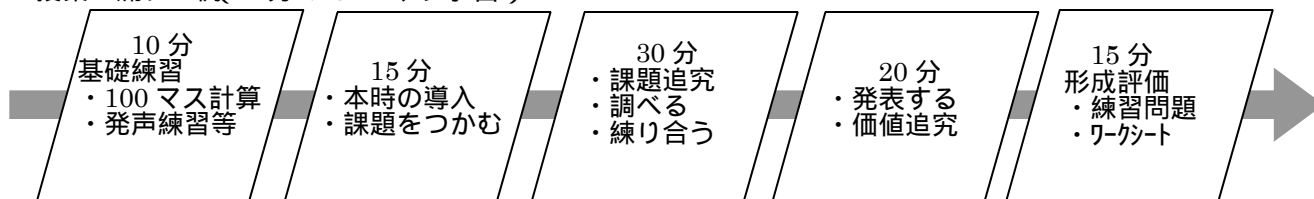
- ・本年度は3・4・5・6年の学年とする。
- ・受け持ちの授業時数が均等になるように調整を図る。

4 一単位時間の弾力的運用による授業実践

方法

- ・3・4校時、5・6校時をノーチャイムとする。
- ・45×2コマ=90分のゆとりをもった時間を設定する。
- ・できるだけ学年同一教科を同一時間に設定する。

授業の流れの例(90分のじっくり学習)



一単位時間の時間割(国語と算数のみ抽出)

は2時間続きの同一教科、・は学年内の同時間同一教科、 はどちらも含むもの

5 基礎的・基本的事項の確実な定着を図るための工夫改善

- ・夏休みさわやか学習会7月22日～8月1日、基礎基本強化学習会10月9日～12月1日、1年生基礎基本強化学習会2月13日～3月1日
- (算数科「数と計算」領域において、特に個別指導を要すると考えられる児童を対象に、基礎的な計算技能(能力)の定着を図る。)
- ・国語科(言語事項「漢字」領域)と算数科[数と計算領域]における基礎的・基本的事項の確実な定着を図るために、学校独自の検定テスト並びに個人カルテを作成
- ・朝の活動における水曜日の「一斉音読」、木曜日の「短作文」の時間の設定

(2) 研究の実際(指導案の抜粋)

学校統一の学習指導と評価の流れ

事前	導入	展開	まとめ	事後
学習指導要領 評価の計画 評価基準 実態把握 手だての計画 ・基礎的な学習 ・発展的な学習 習熟度別コース編成	<b>ねらいの明確化</b>  めあての提示  効果的な導入  興味・関心を高め、方向づけを図る	<b>ねらいの達成のための「わかる授業」の実施</b>  学習状況の把握  ア おおむねわかる児童 発展的な学習の実施 イ 努力を要する児童 補充的な学習の実施 これらを通して  <b>ほぼ達成</b>	<b>本時のねらいの達成状況の把握</b>  学習のまとめ ・自己評価 ・相互評価  次時の見通しを持たせる	観点別学習状況について(評価記録)  努力を要する児童への手だてと実践

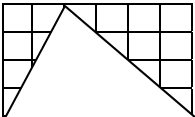
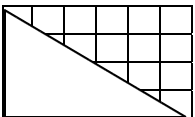
具体的な方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ じゅんぴテスト</li> <li>・ チェックテスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期間巡視</li> <li>・ 観察</li> <li>・ 挙手</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行動観察</li> <li>・ 期間巡視</li> <li>・ 簡易アナライザー</li> <li>&lt;ア&gt;の手だて</li> <li>・ 外の方法はないか考えさせる</li> <li>・ 発展問題する</li> <li>・ 自分で問題をつくる…等</li> <li>&lt;イ&gt;の手だて</li> <li>・ 援助をする</li> <li>・ 別の言い方で説明</li> <li>・ 具体物を使わせる</li> <li>・ ヒントカード</li> <li>・ 児童どうしでの教え合い等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 形成評価</li> <li>・ 練習問題</li> <li>・ マスターシート</li> <li>・ 自己評価カード</li> <li>・ ワークシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノート</li> <li>・ ポートフォリオ</li> <li>・ 観点別評価表</li> </ul> <p>&lt;支援の手だて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 補習</li> <li>・ 家庭学習</li> <li>・ 90分の弾力的時間の効果的運用</li> </ul>
--------	--	--	---	--	--

・5年「図形の面積」

・本時の目標: 三角形を既習の図形(長方形、平行四辺形)に変形したり、等積変形や倍積変形のしかたを工夫して、三角形の面積を考えることができる。

・フロンティアとの関連: 習熟度別少人数指導による指導の工夫改善  
事前テストを行い、概ね理解できているグループと基礎基本の学習をもう一度行うグループに分けて、教材や習熟度に応じた手だてを工夫し、定着を図る。

・展開(抜粋)

	学習活動と発問	留意点【】評価の観点 手だて	
はじめ	<p><b>課題をつかむ</b></p> <p>今までにどんな形の面積を求める勉強をしましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正方形</li> <li>・ 長方形、平行四辺形</li> </ul> <p>今日は三角形の面積の求め方を考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ おおむね理解してる 提示1コース</li> <li>・ 努力を要する児童 提示2コース</li> </ul> <p>三角形の面積の求め方を調べよう</p>	 <p>提示1</p>  <p>提示2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習の図形の面積の求め方を確認</li> </ul> <p>既習の平行四辺形の考えを提示する。</p>
なか	<p><b>予想する</b></p> <p>どんな形にしたら面積が求められそうですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシートの図に考えを書く。</li> </ul> <p><b>解決する</b></p> <p>自分の考えを説明できるようにしましょう。(自力解決)</p> <p>自分の考えをグループで発表しましょう。</p> <p><b>検討する</b></p> <p>グループの考えをみんなの前で発表しましょう。</p> <p>似ているところと違うところを話し合しましょう。</p>	<p>【考】既習の長方形や平行四辺形に変形して考えることができる。</p> <p>手だて1(予想のつかない児童) 三角形の図を印刷して用意し、切ったり貼ったりしてもいいように準備する。</p> <p>手だて2(1つの方法でかけた子) 他の方法でもかくように指示する。</p>	
おわり	<p><b>まとめる</b></p> <p>今日の勉強でどんなことがわかりましたか。</p> <p>この次の授業は公式を考えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシートに自己評価をさせる。</li> </ul>	

(3) 成果と課題

成果

- ・ 個に応じた指導の充実が図られた。
- ・ 児童がじっくり学び、指導と評価が評価が一体化する場の充実が図られた。

- ・教材研究の深まりが見られた。
- ・わかる喜び、学ぶ意欲の成就と基礎学力の向上が見られた。
- (昨年度の達成度・基礎学力検査の結果からの追跡調査で平均点が向上した(国語66点 77点、算数69点 80点)。また、9月に行った実態把握としての達成度・基礎学力検査から児童全体の伸び率が国語で1.3倍、算数で1.4倍に伸びた。)
- ・ホームページの作成ができた。(http//academic.plala.or.jp/chinen-s/)

課題

- ・指導と評価が一体になった授業づくりの深まりー学習過程の工夫
- ・発展教材、補充教材の工夫
- ・学年会の持ち方の工夫
- ・ホームページの更新

(4)研究成果の普及の方策

- パンフレット、学校通信、授業参観日で保護者へ説明を図った。
- 学力向上フロンティア実践研究報告・村学力向上対策実践発表会で取組の報告を行った。
- (平成16年1月10日)
- 今年度よりホームページを立ち上げ、取組内容を掲載している。

(5)その他

- 学習指導カウンセラーの分析・アドバイスによる、「簡易アナライザー」の活用

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】     15年度からの新規校                     14年度からの継続校
- 【学校規模】             6学級以下                     7～12学級  
                                13～18学級                 19～24学級  
                                25学級以上
- 【指導体制】                    少人数指導                    T・Tによる指導  
   一部教科担任制                その他
- 【研究教科】                     国語                     社会                     算数                     理科  
    生活                     音楽                     図画工作             家庭  
    体育                     その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】    有                     無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

学校外の専門家等、地域の人材を活用した指導体制の推進においては、本校では、これまで村出身教師や退職された先生方の会である「水明会」の協力をいただき、個に応じた指導を行っている。